

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（販売担当）	販売量の動き	・パラソルやサンダルといった、シーズン商品が販売点数、売上ともに前年を大きく上回っている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・来客数の伸率が100%を超えている。一番単価の高いディナータイムが最も伸びている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・関与しているクレジット関連組合の様子を見ると、売上前年度比126.3%、件数前年度比118.3%、単価増減106.8%と昨年度からみると非常に良い。
		一般小売店 [茶]（経営）	販売量の動き	・原因が掴みきれしていないし、まだまだ不安定な様子だが、ちょっと数字が上向きになってきた。
		一般小売店 [100円商品]（店員）	お客様の様子	・客の様子をみると、先月、先々月よりも少し財布のひもがゆるんできている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・アパレルを始めとする物販の売上が昨年同月比でいずれも100%を超えている。しかし、飲食は昨年を若干下回っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・前年は台風や長い梅雨の影響で大きく売上を落としており、今年については、晴天が続いている事などにより衣料品を中心に徐々に前年を大きくクリアし、全社11店舗合計で対前年比で100%を超える見込みである。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・セール開始まで待たず、来店したもののそのまま目的買いで購入していた客が目立った。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・ミセスの方の買い控えは相変わらず多く、安くてもよいもので必要なものしか買わないという傾向が続いている。しかしヤングゾーンでは猛暑のせいも、低単価ではあるがTシャツなどのカットソーの動きが良く、先月に引き続き売上がかなり順調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数が、ここ半年間徐々に上昇し、6月の販売点数が、前年比107%とかなり良い数字で推移している。
		スーパー（店舗運営担当）	単価の動き	・先月同様来客数は非常に好調に推移をしているが、気温の上昇が昨年に比べて約2週間ほど早いので、野菜の単価の下落が売上に大きく影響している。また買上数量と一品当たりの金額は伸び悩んでいる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、売上は0.6%のアップとなっており、前年比も3%近くアップしている。特に客数は約3.1%のアップ、絶対数で見ると50人の増となっている。単価は1.8%下がって前年割れたが、客数が伸びているため3か月前より前年比は伸長している。客数が伸びてきているので、良い方向に進んでいるのではないかと。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・6月は衣替えと気温上昇で、夏物が一気に売れた。父の日も例年になく数量がでた。クールビズでボタンダウンシャツが良く売れている。
		衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は売上が対前年比110%と伸びており、レディースの動きは悪いが、それ以上にメンズの伸びが良く、空梅雨ということもあり、非常に夏物の消化が早い。アイテムでいうと、特にショートパンツ、タンクトップの動きが良い。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・4月、5月と非常に低迷をしたが、6月の後半になると暑くなってきたため、季節もの、特に冷蔵庫関係が動いている。6月の最終の1週間は異常なくらい売れている。
		家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・DVDや薄型テレビが好調。暑さも加わってエアコンも好調に推移し、来店客の増加傾向にある。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・今月に入って来客数が急に増え、前年比で約110%くらいで推移をしている。新型車が出ているわけでもなく、何故そうなっているのか現状がまだつかめていないが、少し景気が上向いているのかなと感じられる。		
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・需要があることと新商品が出たことで販売量は上向きである。ただし商品の供給量にまだ不安がある。		

	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・商品によっては好不調はあるが、全体的には堅調に推移している。来客数も前期実績を上回って推移しており、3か月前の水準を維持している。
	その他小売（営業担当）	販売量の動き	・客単価は横ばい状態だが、各店舗とも販売量は確実に増加している。
	観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・来客数は上向きであるが、一人当たりの単価が落ち込んでいる。景気は回復しているのだろうが、いまいち財布のひもが堅いように思われる。
	観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・3か月前に比べると平均単価、消費単価ともに1000円から1500円程度のアップがあるため。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・婚礼の組数が増えており、宴会は好調である、宿泊も前年と比べ客数が伸びている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・この時期になって季節柄、会社関係の接待等が若干増えてきた。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・6月に入って、チラシなどの広告媒体による宣伝を行い、この際のクーポン等を持って来る客がかなり増えた。
変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・修学旅行用品等を購入する時、子供が母親の顔色をうかがいながら安い方を選ぶ。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・6月14日にまた大型店がオープンした。近隣の商店街やスーパーに影響が出ているようである。
	一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・客の購買の姿勢がずっと変わらない。季節が変わってもあまり大きな変化は見受けられない。相変わらず慎重な買物で財布のひもは堅い。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・近隣百貨店の閉店に伴いミセスゾーン顧客が若干増えて、売上回復傾向にもあるが、厳しい暑さのためTシャツなど低単価の商品しか売れていない。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・6月より、中元早期割引をエリア拡大して展開した結果、対前年比で30%増の推移している。またセール前の、カード会員優待割引も反応は良い。ただ価格に対してはよりシビアな顧客の反応が見られ、今回の増も前倒しによるプラスとの見方をしており、今後の推移については大きな期待はかけられない。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・以前にも増して客の価格に対する意識がシビアになってきている。招待会等の値引き販売の時にはそこそこ堅調に推移するが、通常営業日がかかなり厳しい状況にある。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は相変わらず前年並みで推移しているが、今月に入り青果物特に野菜の価格が下がり、野菜は前年を大きく割り込んでいる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・単価の動きも以前と変わらないような状況の中、競合店を買い回りする客の数もだいが増えている。3か月前と比べると変わっていない。
	スーパー（店長）	単価の動き	・空梅雨が続き、最高気温が高いせいもあって、3か月前と比べて夏型商品の伸びが好調で買上げ点数は上がっているが、相変わらず1品単価の下落が続いており売上は横ばい状態である。
	スーパー（店長）	単価の動き	・一品単価の下落傾向に歯止めがかからず、客数増、買上げ点数が増えても売上は横ばいである。
	スーパー（店員）	単価の動き	・相変わらず単価の高いものはあまり出ない。単価が多少高くても量から見れば安くても、最終的な単価が安くなければ売れない状態である。とにかく単価の高いものは出ない。広告でも目玉商品で、値段の安いものはでるが、そこそこの値段では売れない。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・相変わらず買上げ個数が上がらない。いろいろなキャンペーンを実施しているが、商品を手にとって吟味し元に戻す場面をよく見かける。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・バーゲン待ちの時期にはまだ早いが、来店する客はあっても販売量が落ちている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・ここ6月にきて、スーツ、サマー礼服等の動きは例年並であるが、それプラス、シャツ、ワイシャツもしくはカジュアル等の購入状態が良くない。またクールビズの影響でワイシャツ等の動きは例年よりはかなり良い状況になっている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・新型車効果はあるものの、販売台数は伸び悩んでいる。来店客数は若干伸びている。	

	乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・販売量は対前年比を上回っているが、顧客の代替えサイクルが確実に長くなっており買い控えの傾向は以前より増して、ますます強くなっている。
	乗用車販売店 (営業担当)	来客数の動き	・新型モデルを投入し、宣伝量も通常より多く展開したにも関わらず、新規客の動きが鈍い。
	乗用車販売店 (サービス担当)	お客様の様子	・板金塗装、一般処理もだが、板金なら少々壊れていても修理をしないで乗る傾向が見受けられる。
	その他専門店 [カメラ](地域ブロック長)	競争相手の様子	・全国的にみて、競争相手は多くが赤字経営となっている。投資が出来ているか、出来ていないかの差でだが、当社としても全てにおいて頭打ちの状態である。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・お昼の入客はますますである。以前よりは少し増えているが、平日の夜の入客は、非常に少ない状況のままである。
	その他飲食[ハンバーガー] (経営者)	販売量の動き	・安い単価の商品の販売量は増えているが、コスト高につながり効率が悪い。客数の伸びにより対前年、前月よりは良くなっているが、3か月前ほどの伸びはない。
	都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・バイキングレストランの昼食の集客が悪くなっているが、季節営業のビアガーデンは好天にも恵まれ前年を越える集客となっている。
	都市型ホテル (総務担当)	販売量の動き	・宿泊は前年を上回っているが、他の部門は低迷しており、前年比マイナス基調に大きな変化は見られない。
	タクシー運転手	単価の動き	・中、長距離の客の利用が極端に少なくなっている。また単価が千円以内のものが売上の7割程度を占めている。この傾向は今年の夏ごろから現在まで変わっていない。
	通信会社(経営者)	お客様の様子	・加入契約数が、ここ数か月の実績から低下したままである。かつ解約も増加しており、純増加数が低迷したまま推移しており、さらに減少も見られる。
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・いつものことだが、建築業界は非常に冷えきっている。同業者の声を聞いても仕事が無いという言葉がすぐ返ってくる。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量は、低水準をのま推移している状態にあり、ご来場の来客数もあまり変化が見られない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・特に販売量が非常に激減している。私のところの商店街はある意味特殊であるかもしれないが、割に専門店的な店が多く、非常に悪い。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・毎月々、来街者数がどんどん減少している。日曜日でも誰も商店街を通っていない。
	一般小売店[印章](営業担当)	来客数の動き	・昨年に比べ来客数が若干少なくなってきた。この一年に輸入禁止により象牙印材の仕入れが5割以上も高騰しており、今月より象牙のものの販売価格を上げるようにした。
	スーパー(総務担当)	単価の動き	・競合店の安売りもあり、食品全体の平均単価が下落し、またこの影響が客単価も下落している。しかし客数と販売数量は増加しており景気が良くなってきたのか悪くなっているのか分からない。
	家電量販店(店長)	来客数の動き	・暑い毎日、客も外出も大変で、来店数は激減している。エアコン、冷蔵庫等の修理の多い毎日だが、買い替えには至っていない状況である。
	住関連専門店 (営業担当)	来客数の動き	・前年も今年も同じ会員セールを行なっているが、その会員セールの客の来店、実績自体が1割減少している。
	通信会社(総務担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降、出費がかさみ商品購入意欲が低下している。
	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・屋外型の集客施設であるために天候に左右されるのは仕方ないが、6月に入ってからの真夏日が続き、個人客の動きが目に見えて落ちている。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・競合店で安売りする店が増えてきたため、客が分散し、来客数がだんだん減ってきている。
	設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・周りの業者に、倒産や廃業するものが表に出てきた。

		住宅販売会社 (経理担当)	販売量の動き	・新規発売物件の契約率が予定の2割程度と伸び悩んでおり、また既存物件も目標に達していないものが多く、全体では計画比で6割程度の達成率となりそうである。
	悪くなっている	その他専門店 [時計](経営者)	来客数の動き	・金地金・金貨の客数が小売・買取ともに年間で最低のレベルである。
企業 動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	化学工業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・生産量、出荷量共に先月と大きな変化はなく安定しており社内は全般に高稼働率を維持している。物流費、原燃料費高騰の影響を受けながらも好景気の影響で、利益が出ている。
		化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・5月を境に原材料の値上げ影響が顕著になり、収益に陰りが出てきた。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・自動車関連が引き続き好調な受注を維持しており、また梅雨にはいって予想以上に猛暑が続き、特にエアコンのラインがフル操業の状態になっている。
		建設業(経営企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・今月の受注は前年同月と比べると2倍強と大きく伸びている。その要因としては民間の設備投資が増加した点にある。
		金融業(業界情報担当)	取引先の様子	・輸出を中心とした主力車の販売好調を背景に、生産はフル操業を持続中である。樹脂原料価格の上昇などコストアップはあるが、高操業により吸収し、利益水準は高水準を維持している。
		不動産業(経営者)	それ以外	・現在、金融機関がお金の貸出しに非常に意欲的になっている傾向が見えており、取引が少しずつ活性化しつつある。
	変わらない	窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・短納期、飛び込みの注文が多く最終的にはまずまずの生産量が確保できている。
		非鉄金属製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・中国関係で、高騰する製品もあれば、競合し価格低迷が続く製品もあり、まだら模様である。高騰する製品は、バブル時のような感覚を持っているものとして対応していく必要がある。
		金属製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は生産能力以上にあり、3か月前と同水準である。
		一般機械器具製造業(経営企画担当)	それ以外	・自社製品の売上は国内、海外ともに好調に推移しているが、原材料の高騰に伴い生産コストが悪化しており、引き続き厳しい状況にある。
		輸送業(統括)	それ以外	・景気は上向きだと思うし、自分の周りでは新規業務は増えている。しかし顧客の要請から3年以上前から開始した値引きが続いており、結果的に利益に結びつかない。
		輸送業(総務担当)	取引先の様子	・空梅雨で農作物の動きが1週間から2週間ほど遅くなっている。月ずれの影響がある。
		通信業(社員)	受注価格や販売価格の動き	・既存のお客様からの受注分についての価格を低下させざるを得ない。従って売上は横ばいもしくは減少傾向にある。さらなる計画見直しを求められており、新たなメニューでの受注拡大に向けた提案を繰り返させる得ない状況である。
	通信業(営業企画担当)	受注量や販売量の動き	・顧客企業の決算処理もほぼ片付き、新年度の四半期を経過したが、通信関係の新規受注にあまり変化はみられない。引き合いはあるものの、受注に結びつくケースは従前と変わっておらず、インターネット活用等を主体とした廉価なネットワーク構成となるものが現在でも主体である。	
	金融業(営業担当)	取引先の様子	・地方の経済にある後継者不足、法人事業の落ち込みがまったく回復していないとか、都市部の景気回復が地方にはまだまだ到達していない。	
	会計事務所(職員)	取引先の様子	・全般的に、どの業種も前年並みの水準を維持している。売上高、利益、共に好調ではないが、底値安定の感じがある。	

	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・5月度と3か月前の2月度を比較すると、水揚数量では740tの減少、水揚金額でも117400千円の大幅減少である。水揚数量の減少原因は、沖合い底引き船、中型まき網の減少である。また水揚金額の減少原因も沖合い底引網、中型まき網が減少したためである。又、5月度単月の前年度対比では水揚数量で103tの増加、率で105%、水揚金額では、38000千円の減少、率で92.3%だった。水揚数量の増加理由は、小型定置網が増加したため、水揚金額の減少理由は、小型底引き網、イカ釣船が減少したためである。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大口の顧客が少なくなったということが一番に言える。売上自体を伸ばそうと、小さいところからいくらか要求はあるが、やはり大口の減少が響いている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量はやや減少しており、それに加えて購入資材は、高値水準のまま推移しており、厳しい状況が続いている。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内の消費動向が依然として低迷しており、国内販売の維持すら難しい状況となっている。あとは同業者間とのシェアの奪い合いにいかにか勝つかというところにしぼられている。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・一時期より土地の動きが少なくなり、土地の買い需要はあるものの、土地の売買成立に至らないケースが多くなってきた。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・これまで取引の無かった数社から開発案件急増という理由で求人依頼が入ってくるようになった。これまでは取引のある紹介会社から人材を調達できていたが、それが難しくなったためこちらにも要請が入るようになった。
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数に対し求職者が足りず、派遣業界の伸びは非常に活発である。前年に対し113%の伸びとなっている。
		人材派遣会社（担当者）	求職者数の動き	・求人が増え、求人募集に対しての応募者が減ってきている。
変わらない		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は大きな変化なし。増加した業種も小売業で、スーパーの新店舗オープンに伴う出店テナントからの求人が目立った程度であり、景気動向によるものではない。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人は徐々に増加しているものの、新規求職者も在職者・無業者を中心に増加傾向にあり、月間有効求職者数は過去5年間で最高の人数となった。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・地元大手製造業において、原油高や円高の影響は業績に多少影響があるものの、雇用面に関しては特に影響はない。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・3か月前と比較して新規求人数が減少し、新規求職者数が増加した。有効求人数は3か月前とほぼ同数であり、有効求職者が増加したことから有効求人倍率が低下した。対前年比で見ると、有効求職者の減少傾向が続いていることや、雇用保険資格喪失者に占める事業主都合離職者の割合も近年にない低率となった。
		民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・上場企業の事務職求人ですら正社員求人から契約社員求人に変更になった。雇用の安定には結びついていない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・新卒採用の内々定数が出始める時期ではあるが、今年度はその報告数が思いのほか伸びず、地域企業は新卒採用に関して慎重姿勢を崩していない様子がうかがえる。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-